

誰もが抱える悩みを。パッと解決！

福田貴一先生の

福が来るアドバイス

子どもたちが夢や目標を抱ける学校を選びましょう！



早稲田アカデミー 千葉ブロック統括責任者 福田 貴一

はじめは子どもの将来のことを一番に考えて、中学受験を選択したことでしよう。しかし、受験勉強を進めていく中で、ともしれば「合格させるため」の方が大きくなってしまい、気がつく「子どものため」という本来の目的を見失ってしまっていることがあります。子どもに希望を持たせ、前向きに勉強に取り組ませるためには、どのように働きかければよいか、考えてみましょう。

知っておきたい学校選びのポイント

目標が持てない若者たち

文部科学省の平成24年度学校基本調査から見ると、平成24年3月に大学を卒業した約56万人のうち、進学も就職もしておらず、正規労働者でもないといったいわゆる「安定的な雇用に就いていない者」は約4人に1人いると推測できます。この理由は、長引く不況などの社会的要因もあるとは思いますが、しかし、「目標が明確でない状態で大学を卒業してしまったり、または「大学卒業時に自分のやりたいことが見つかっていない」「そんな若者が多くなっている」とも事実がうかがえます。

このような若者が増えた理由のひとつは、昔に比べて精神的な成長度が低くなったことがあります。高校3年生が大学受験のために通う予備校と塾を例に見ても、以前は講師が一方的に授業を行うスタイルの予備校に通う人が多かったのですが、今は講師が生徒の理解を確認しつつ授業を進める塾の方が人気だそうです。これも精神的な成長度の低さの表れと言えるでしょう。



がたはるごがでる体制を整えましょう。

進学実績よりも重要な「どう成長するか」

「通わせたい学校」を選ぶときは、「子どものため」「この学校の特色」「この学校で子どもはどのよう成長していかの」を「と」考えてみるべきです。そのときに参考になるのが、各校が掲げている「教育理念」「や」「教育方針」です。「見ると、よく似た言葉が並んでいるようにも思われますが、首都圏約300校の私立中学校を細かく見れば、それぞれ異なる印象の中からは「この子の性格ならば〇〇中学校か△△中学校」というように、子どもが成長していく姿が想像できる学校を選んでみてほしいです。

また、どうしても気になるのが大学進学実績です。しかし、よく考えてみてください。今、6年生の子どもが大学受験するのは6年先です。たとえ、現時点の大学進学実績が振るわなくても、6年後はどうなっているかわかりません。大学進学実績がひとつ

また、誰かがひいたレールの上や一般的な価値観だけで大学まで進んだ若者が多いことも理由のひとつです。自分の夢や目標について考えたことがなかった若者たちは、当然ながら就職しづらいと思って、夢が持てない「目標が見えない」ので、進むべき道も分かりません。たとえ就職できたとしても長続きするはずもなく、大卒者の約30%が3年以内に仕事を辞めているという状況になっています。

夢や目標を持った人生を歩ませるには

子どもに夢や目標を持たせたいのであれば、自分で考える習慣を身につけさせることが必要です。そこには、「自分で考えさせる」ためのサポートが重要です。例えば、志望校を決めるとき、「自分で志望校を決めたい」とだけ言っても、子どもひとりでは考えられないかもしれません。だからと言って、「この学校にしなさい」と保護者の皆様が決めてしまったり、子どもたちから「自分で考える」機会を奪ってしまうことになり、では、どのようすれば良いのでしょうか。

の目安にはなりますが、今から出口について頭を悩ませるよりは、「6年間、どう過ごすか」について考えることを忘れないでください。

ただ、「この中学校・高校は〇〇学部が強い」「〇〇学部の合格者が多い」「このようないつの特長がある」とも事実です。夢や目標がある程度決まらなければ、大学進学までを見据えた中学校選びをすることもひとつの方法です。

子どもたちの可能性を奪わない学校選び

子どもたちには、「これから先50年間夢中になれること」を持つてほしいです。私は思っています。もちろん、「これから先の人生で夢中になれるものは何ですか?」と子どもに聞いたとしても、答えられるはずはありません。しかし、常に意識していれば、自然と方向性や道筋は見えてくるはずです。それがほんやりとでも見れば、子どもたちが「通いたい中学校」や、その先にある学校生活、将来も見えてくるのではなからうでしょうか。

そのとき、注意しなければいけないのは、子どもたちの可能性を奪わないことです。あく「可能性を伸ばす」と言いますが、本来は誰もが平等に可能性を持っているはず。しかし、生きていくなかで親や自分自身がその可能性を狭めてしまったため、選択肢が減っていくのです。少しでも子どもの可能性を奪わないよう、学校を選ぶときはもちろん、子どもの夢や目標には関心を寄せざるをたしてしまわぬように。

実際に目で見て確かめる学校選び

今後、第一志望校が決まれば、何度も学校見学会や説明会に参加されると思います。できれば、第一志望校以外の学校にも足を運ばれることをお勧めし

まずは、保護者の皆様が「通わせたい学校」をいくつかピックアップしてください。そして、その理由や学校の特徴などを説明したうえで、子どもたちが目標を考え、自分に合った「通いたい学校」を選ぶ、これが理想形です。

学校選びの基準は早めに決めましょう

「通わせたい学校」をピックアップするためには、選ぶ基準が必要です。当然のことながら、この基準は子どもも成績や偏差値ではありません。「この子のために、何が必要なのか」を考え、その「ニーズ」に合った学校を選ぶ、これがポイントです。

ただ、保護者の皆様がよく目にする学校案内などに書かれているのは、偏差値・教育理念・大学進学実績・授業・カリキュラム・フオー体制：など様々です。この中から、何に重点を置くべきか考えてください。このときに大切なのが、「両親で話し合ひ、意見を一致させることです。なぜなら、志望校を絞り込んだにもかかわらず、「うちのの方が良いのでは」と掘り返すような言葉をお父様やお母様がかけてしまったり、子どもは戸惑い、迷います。中学受験のひとつの山場である6年生の夏休みまでに、家族全員で話し合ひ、第一志望校を決め、そこに向けて必死に

ます。首都圏だけでも私立中学校は約300校あるので、そこから、もしかすると「第一志望校より子どもに合っている」「この学校に通う子どもはどの姿がイメージできた」というケースがあるかもしれません。

もちろん、第一志望校の在校生を見たとき、その輪のなかで「我が子」「自分」がいることをイメージできれば、これを望みます。中学受験の心、最初から「この学校」「と決めてしまわぬように、はなから、たんなりの学校を見た瞬間、その学校の先輩たちのような学校生活を送りたい」といった具体的な目標も生まれるはずです。

さらに、小学校4、5、6年生で各一回ずつ、計3回は同じ学校の見学会や説明会に出向き、「4年生に見たときと比べてどうか」「他校との違い」などが比較できるような「学校見学会」を親子で作成してみてください。そして、家族揃って、子どもも夢や目標を真剣に聞く場をしっかりと作ってください。そうすれば、子どもたちは「僕・私の夢や将来を家族みんなが応援してくれている」という強い気持ちを感じ取り、安心して自分の夢に向かって歩いていけるはずです。

ブログ 四つ葉Café 公開中!



中学受験をお考えの小学校3・4年生のお子様をお持ちの保護者のためのブログです。小3・小4 責任者 福田 貴一

早稲田アカデミーホームページ・四つ葉 café に公開

中学受験に関するブログを公開しております。このブログでは、学習計画の立て方、やる気の引き出し方、テストの成績の見方、学校情報など、中学入試に関する様々な情報をお伝えします。

詳細はホームページをご確認ください。早稲田アカデミー 検索